

# 川西町公共施設個別施設計画

川 西 町

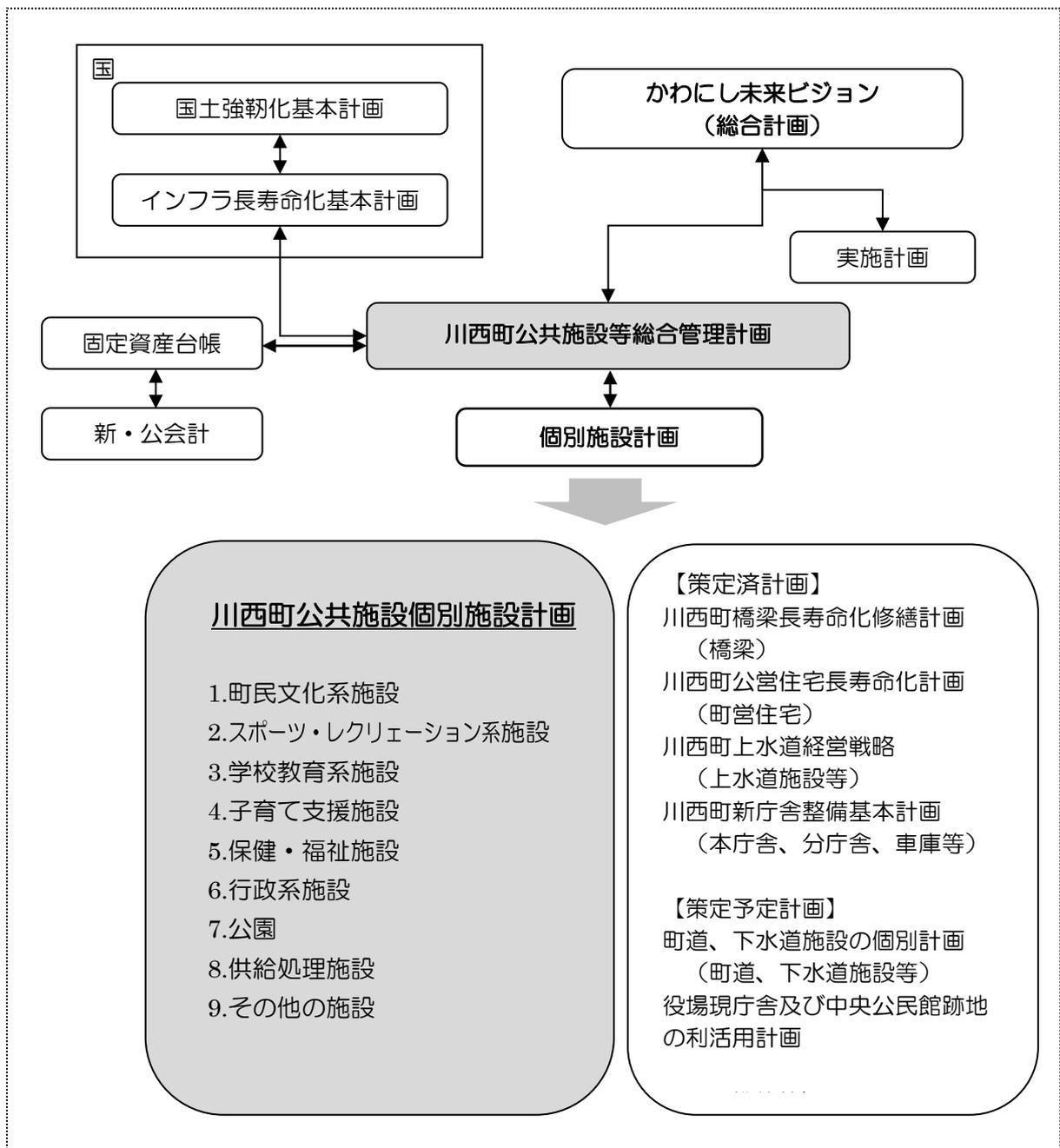
平成30年3月

## 目 次

I	計画の目的、位置づけ	1
II	対象施設	2
III	計画期間	2
IV	計画の基本的な考え方	2
V	施設類型ごとの施設管理計画	3
	1. 町民文化系施設	3
	2. スポーツ・レクリエーション系施設	8
	3. 学校教育系施設	10
	4. 子育て支援施設	11
	5. 保健・福祉施設	12
	6. 行政系施設	13
	7. 公 園	14
	8. 供給処理施設	16
	9. その他の施設	17
VI	計画の進行管理	18
VII	施設管理計画一覧	19

## I 計画の目的、位置づけ

本計画は、国の「インフラ長寿命化基本計画」及び「かわにし未来ビジョン」に基づいて策定した「川西町公共施設等総合管理計画」（平成28年3月策定。以下「総合管理計画」という。）の個別計画として、総合管理計画の基本方針を踏まえながら、施設の状態や点検・診断により、計画期間における施設管理の対策方針を定めることを目的とする。



## Ⅱ 対象施設

本計画は、総合管理計画に掲げる公共施設及びインフラ資産から、以下の施設等を除いた施設を対象に計画を策定する。

○個別に計画を策定している施設等

- ・川西町公営住宅長寿命化計画（平成24年3月策定）：町営住宅
- ・川西町橋梁長寿命化修繕計画（平成24年5月策定）：橋梁
- ・川西町上水道経営戦略（平成29年3月策定）：上水道（施設、管路等）
- ・川西町新庁舎整備基本計画（平成29年11月策定）：本庁舎、分庁舎、車庫等

○今後、個別に計画策定を予定している施設等

- ・道路及び下水道施設のインフラ資産：町道、下水道（施設、管路等）
- ・役場現庁舎及び中央公民館跡地の利活用計画

○総合管理計画の策定後に除却した施設

- ・旧埋蔵文化財資料展示館

○小規模な施設

- ・公衆トイレ

○町所有でない施設

- ・犬川河川公園炊事場

## Ⅲ 計画期間

本計画の計画期間は、総合管理計画との整合を図るため、平成30年度から平成37年度までとする。

## Ⅳ 計画の基本的な考え方

計画の策定にあたっては、総合管理計画に掲げる基本方針に基づいて、施設の利用状況や劣化・損傷等の状態、耐震診断の結果をもとに施設の必要性や配置の考え方を整理、検討を行い、平成32年度を目標とする役場新庁舎の整備に伴う将来的な財政負担を踏まえながら、計画期間における施設管理の対策方針を示すものとする。

対策の方針については、施設躯体に関わる大規模な改修や耐震補強、建替えによる施設の更新、施設の廃止（除却）について方針を示すこととし、施設のメンテナンスや維持修繕、設備更新等の計画は見込まないものとする。

## V 施設類型ごとの施設管理計画

### 1. 町民文化系施設

#### (1) 川西町フレンドリープラザ

施設名	建築年	経過年	延床面積(㎡)	構造	管理担当課
フレンドリープラザ	1994(H6)	23	4,618.29	SRC	生涯学習課
エコスノードーム	2007(H19)	10	393.40	S	生涯学習課

【※構造】:W(木造)、RC(鉄筋コンクリート)、SRC(鉄筋鉄骨コンクリート)、S(鉄骨)

#### ① 現状と課題

##### ア 施設の利用状況及び劣化・損傷等の状態

###### <フレンドリープラザ>

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
開館日数	272 日	287 日	295 日	290 日	287 日
稼働日数	195 日	208 日	212 日	205 日	166 日
利用者数	22,780 人	24,378 人	28,777 人	23,160 人	20,239 人

###### <町立図書館・遅筆堂文庫>

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
開館日数	296 日	297 日	289 日	297 日	298 日
貸出利用者数	5,911 人	6,102 人	6,016 人	7,402 人	7,486 人
貸出利用冊数	23,907 冊	25,371 冊	25,023 冊	29,156 冊	28,967 冊

建物の躯体は概ね健全な状態であるものの、内外装（床カーペット、カーテン、屋根塗装など）は汚れや劣化が目立ち計画的な改修が必要である。設備関係は経年劣化が進み、建築基準法に基づく定期点検で排煙設備の不良が指摘されているほか、電気設備の法定点検ではキュービクル式高圧受電設備の更新が求められているほか、多くが更新時期を迎えている。

また、トイレや出入口扉のバリアフリー化や照明等の省コスト化のほか、音響・照明設備の計画的な更新が求められている。

##### イ 点検・耐震診断の有無及び診断結果等

新耐震基準は適用されている。一方で、ホール天井の構造が平成 26 年に施行された改正建築基準法施行令による「特定天井（脱落によって重大な危害を生ずるおそれがある天井）」にあたり、既存不適格となっている。また、エレベータについても新基準への対応を検討する必要がある。

#### ② 維持管理の方針及び計画

##### ア 施設の必要性、配置の考え方

町民の文化的活動を支える拠点施設として継続した施設管理が必要である。

これまでの機能を維持することに加え、故井上ひさし氏関連資料の更なる活用、情報発信を図るため、収蔵庫及び展示スペースの将来的な拡充について、今後、整備の手法を含め検

討を行う必要があるとともに、改正建築基準に適応した特定天井などの大規模改修が必要である。エコスノードームについては現状の維持管理を行う。

イ 対策の方針

計画的な維持修繕、設備更新等により長寿命化を図り、施設を維持する。なお、ホール天井について、改正建築基準に適応した大規模改修を平成36年度以降に行う。

(2) 川西町交流館（あいばる）

施設名	建築年	経過年	延床面積(㎡)	構造	管理担当課
交流館(校舎棟)	1995(H7)	22	4000.48	RC	生涯学習課
〃(屋内運動場)	1995(H7)	22	1778.12	SRC	生涯学習課

① 現状と課題

ア 施設の利用状況及び劣化・損傷等の状態

	—	—	—	—	平成28年度
校舎棟	—	—	—	—	2,145人
宿泊施設	—	—	—	—	90人
文化施設	—	—	—	—	367人
屋内外運動場	—	—	—	—	6,018人

本施設は、平成8年に中学校施設として竣工し、閉校に伴い広く町民等が集える施設として平成28年6月に開館している。

生涯学習や健康増進に関する講座、交流事業をはじめ、宿泊交流機能、歴史や当町ゆかりの偉人の伝承・情報発信として埋蔵文化財資料展示及びアルカディア人物館、フレンドリープラザ遅筆堂文庫の分館を開設し、交流や学習の拠点として利用促進を図っている。

施設の現状は、竣工から20年が経過し、主に設備に経年劣化の兆候が表れてきており、貯水槽や排水等の給排水設備、暖房用オイルサーバー設備、浄化槽等設備、電灯等の電気設備の計画的な改善が必要となっている。

イ 点検・耐震診断の有無及び診断結果等

新耐震基準は適用されている。

② 維持管理の方針及び計画

ア 施設の必要性、配置の考え方

生涯学習推進の拠点施設であるとともに、埋蔵文化財の資料収蔵・展示、遅筆堂文庫分館として故井上ひさし氏寄贈の多数の書籍等の収蔵・展示として活用など、文化薫るまちづくりにとって重要な施設として継続して維持管理を行う。

イ 対策の方針

計画的な維持修繕、設備更新等により長寿命化を図り、施設を維持する。

(3) 地区交流センター

施設名	建築年	経過年	延床面積(m <sup>2</sup> )	構造	管理担当課
大塚地区交流センター	1978(S53)	40	519.50	S	まちづくり課
犬川地区交流センター	1976(S51)	41	409.80	S	まちづくり課
中郡地区交流センター	1981(S56)	36	461.07	S	まちづくり課
玉庭地区交流センター	1976(S51)	41	456.03	S	まちづくり課
東沢地区交流センター	1973(S48)	44	393.33	W	まちづくり課
吉島地区交流センター	1979(S54)	38	491.18	S	まちづくり課

① 現状と課題

ア 施設の利用状況、劣化・損傷等の状態

<大塚地区交流センター>

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
利用件数	629件	559件	609件	577件	499件
利用人数	11,765人	12,471人	15,644人	13,054人	10,180人

<犬川地区交流センター>

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
利用件数	357件	285件	316件	312件	233件
利用人数	5,143人	3,371人	4,654人	4,832人	4,005人

<中郡地区交流センター>

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
利用件数	627件	615件	617件	927件	387件
利用人数	10,180人	10,360人	10,276人	10,859人	8,219人

<玉庭地区交流センター>

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
利用件数	383件	406件	430件	419件	438件
利用人数	4,311人	4,891人	5,106人	5,416人	5,096人

<東沢地区交流センター>

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
利用件数	107件	36件	32件	20件	9件
利用人数	662人	590人	316人	271人	236人

<吉島地区交流センター>

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
利用件数	796件	622件	1,013件	876件	1,006件
利用人数	12,562人	9,837人	11,228人	11,907人	13,303人

平成16年「まちづくり基本条例」を制定し、以来、各地区交流センターは「協働のまちづくり」の拠点施設と位置づけている。平成21年度からは、指定管理者を各地区経営母体とし、施設の維持管理をはじめ、それぞれに地域の特性や課題に応じた地区計画に基づいて各種学習や講座、交流事業、地域の伝統文化の継承など、地域主体のまちづくりの拠点として活発に利用が図られている。

施設は、築36年から44年が経過しており、これまで計画的に改善修繕を図っているものの、経過年数が最も長い東沢地区交流センターの老朽化は著しく、中郡地区交流センターでは屋根の劣化、犬川地区交流センターでは二階床の劣化が見られる。また、大塚、犬川、中郡、吉島地区交流センターについては、駐車場の損傷も見られ周辺環境の改善等も必要とされている。

イ 点検・耐震診断の有無及び診断結果等

施設の多くが新耐震基準以前の建物であるが、法令による耐震診断の対象施設でないため、耐震診断は実施していない。

② 維持管理の方針及び計画

ア 施設の必要性、配置の考え方

第5次総合計画「かわにし未来ビジョン」でまちづくりのテーマを「協働」そして「共創」へと掲げ、その実現のための活動拠点として引き続き維持管理を行う。

施設全体の劣化が著しい東沢地区交流センターについては、隣接する東沢活性化センターへ活動の拠点を移行する。

イ 対策の方針

計画的な維持修繕、設備更新等により長寿命化を図り、施設を維持する。

東沢地区交流センターは、平成33年度以降に除却を行う。

(4) 川西町農村環境改善センター

施設名	建築年	経過年	延床面積(m <sup>2</sup> )	構造	管理担当課
農村環境改善センター	1982(S57)	35	1,439.08	RC	農地林務課

① 現状と課題

ア 施設の利用状況、劣化・損傷等の状態

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
利用件数	430件	431件	493件	537件	554件
利用人数	12,541人	13,903人	14,876人	15,640人	16,037人

施設躯体は概ね健全であるものの、築35年が経過しており劣化・損傷が進み、計画的な維持補修、設備更新が必要である。建築基準法に基づく定期点検で排煙設備・非常灯の不良が指摘されているほか、非常時放送設備の更新や多目的トイレ等の環境改善が課題であり、計画的に維持修繕を行う必要がある。

イ 点検・耐震診断の有無及び診断結果等

新耐震基準は適用されている。

② 維持管理の方針及び計画

ア 施設の必要性、配置の考え方

本施設は、農村居住者の健康増進と地域連帯の醸成等を図り農村の環境改善の組織的推進に資することを目的に設置され、社会教育団体や地域コミュニティー活動、サークル活動に利用されている。近年は、講演会、研修、学習、会議などの多目的な町民ホール機能としての利用等、年々利用者数が増加している状況であることから、有益な施設として維持管理を継続していく。

イ 対策の方針

計画的な維持修繕、設備更新等により長寿命化を図り、施設を維持する。

(5) 川西町東沢活性化センター

施設名	建築年	経過年	延床面積(m <sup>2</sup> )	構造	管理担当課
東沢活性化センター	2010(H22)	7	495.71	W	農地林務課

① 現状と課題

ア 施設の利用状況、劣化・損傷等の状態

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
利用件数	260 件	229 件	233 件	221 件	213 件
利用人数	3,893 人	4,394 人	2,903 人	2,796 人	3,806 人

施設躯体は健全である。築 7 年と比較的新しい施設であるが、建物外側の木製デッキや付け柱等の外部木部に経年変化が生じている。

イ 点検・耐震診断の有無及び診断結果等

新耐震基準は適用されている。

② 維持管理の方針及び計画

ア 施設の必要性、配置の考え方

地域住民の農業経営、生活改善、農業の発展及び農業後継者の育成を図り、地域の発展に資することを目的に設置され、東沢地区協働のまちづくり推進会議が指定管理者として施設管理及び事業運営を行っている。

隣接する東沢地区交流センターの老朽化もあり、地区交流センター機能を総合し、地区全体のまちづくりの拠点施設として利用促進を図る。

イ 対策の方針

計画的な維持修繕、設備更新等により長寿命化を図り、施設を維持する。

## 2. スポーツ・レクリエーション系施設

### (1) スポーツ・体育施設

施設名	建築年	経過年	延床面積(m <sup>2</sup> )	構造	管理担当課
町民総合体育館	1981(S56)	36	4,602.75	SRC	生涯学習課
総合運動公園クラブハウス	1989(H1)	28	608.31	W	生涯学習課
町営小松スキー場ロッジ	1989(H1)	28	156.50	W	生涯学習課

### ① 現状と課題

#### ア 施設の利用状況、劣化・損傷等の状態

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
体育館	52,352 人	58,428 人	51,266 人	49,851 人	44,356 人
クラブハウス	1,825 人	1,382 人	1,933 人	2,137 人	1,566 人
スキー場ロッジ	2,687 人	2,195 人	2,437 人	1,108 人	1,792 人

#### ○町民総合体育館

竣工から36年が経過し、平成28年度に正面南側外壁の改修を実施しているが、屋根及び東西外壁の改修、アリーナ床面等及びエレベータや自家発電装置の設置等の設備改善が課題となっている。

#### ○総合運動公園クラブハウス

竣工から28年が経過し、計画的に部分的な補修はしているものの、屋根及び木製外壁等について劣化・損傷等が見られる。

#### ○町営小松スキー場ロッジ

平成30年度からパークゴルフ場として施設利用を行うことから、平成29年に内装等の改修工事を実施している。

#### イ 点検・耐震診断の有無及び診断結果等

総合運動公園クラブハウス及び小松スキー場ロッジは、新耐震基準は適用されている。

新耐震基準以前の町民総合体育館は、平成29年度に耐震診断を実施し、1階及び2階については耐震性を有しているものの、3階南北方向の耐震性が不足（構造耐震指標I<sub>s</sub>値：0.293）していること、また、屋根面ブレースの水平伝達力が不足していると診断されている。

### ② 維持管理の方針及び計画

#### ア 施設の必要性、配置の考え方

健康増進や体力づくりに対する町民の意識の高まりが進む中、町民のスポーツ活動の活性化・多様化に対応できる施設整備が求められている。

特に、町民総合体育館及び総合運動公園クラブハウスは、健康体力づくりや競技力向上、交流促進など、町民のスポーツ活動の拠点施設として必要な耐震性を確保し、安心・安全な施設環境とともに利用しやすいシステムづくりを構築し、利便性の向上を図る。

また、小松スキー場ロッジについては、冬季スポーツの重要な活動施設であるとともに、平成30年度からパークゴルフ場のクラブハウスとして施設の利用促進を図る。

## イ 対策の方針

計画的な維持修繕、設備更新等により長寿命化を図り、施設を維持する。

町民総合体育館は、耐震補強等の大規模改修について平成32年度以降から概ね平成34年度までを目途に整備を行う。

## (2) 川西町浴浴センター

施設名	建築年	経過年	延床面積(m <sup>2</sup> )	構造	管理担当課
浴浴センター	1992(H4)	25	2,925.54	RC	産業振興課

### ① 現状と課題

#### ア 施設の利用状況、劣化・損傷等の状態

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
温泉	55,108人	51,179人	26,283人	76,045人	89,321人
宿泊	4,206人	4,030人	2,464人	5,766人	6,312人
宴会・レストラン	19,776人	19,525人	11,978人	36,699人	40,460人

※平成26年10月21日から平成27年4月21日まで、改修により休館

平成4年に保養棟、平成5年に宿泊棟がオープンし、平成7年から株式会社ダリヤパークサービスに運営を委託し、現在、指定管理者として継続して管理運営を担っている。

オープン以来25年が経過し、施設全体に経年劣化が見られたことや利便性の向上を図るため、平成26年に宿泊棟の改修工事を実施している。平成27年春のリニューアルオープン以降、多くの来館者を迎え好評を得ている。

温泉保養棟については、計画的に設備更新を図ってきているものの、施設のシンボルであるダリアドームの劣化が見られるほか、源泉湯量と湯温低下が進んでおり、第2源泉掘削の必要性などの調査、検討が必要であり、源泉確保と併せて、温泉保養等の大規模改修が課題である。

## イ 点検・耐震診断の有無及び診断結果等

新耐震基準は適用されている。

施設の定期保守点検の結果から温泉保養棟の大規模改修や設備・備品等の更新や改修時期を迎えているものが見られる。

### ② 維持管理の方針及び計画

#### ア 施設の必要性、配置の考え方

町民の健康増進や休日の娯楽、観光振興等に寄与する施設として、本施設の役割は大きい。

管理運営を担う株式会社ダリヤパークサービスでは、平成26年度の宿泊棟リニューアル工事に伴う休業期間を従業員研修に有効に活用し、サービスのグレードアップに取り組み、利用者の増加、評価につながっており、施設の改修改善による利便性向上とともにサービスの向上を図りながら、更なる利用促進を図っていく。

## イ 対策の方針

来館者へのサービスの向上や衛生管理を徹底するために、計画的に維持修繕、設備更新等を行い施設の長寿命化を図る。

なお、温泉保養棟の経年劣化や源泉を含む温泉施設の改修について、平成34年度以降に整備を行う。

### 3. 学校教育系施設

#### (1) 小・中学校

施設名	建築年	経過年	延床面積(m <sup>2</sup> )	構造	管理担当課
大塚小学校 校舎	1988(S63)	29	3450.00	RC	教育総務課
大塚小学校 体育館	1986(S61)	31	911.00	SRC	教育総務課
犬川小学校 校舎	1989(H1)	28	2336.24	RC	教育総務課
犬川小学校 体育館	1977(S52)	40	756.96	SRC	教育総務課
小松小学校 校舎	2013(H25)	4	5017.00	RC	教育総務課
小松小学校 体育館	2002(H14)	15	1342.00	SRC	教育総務課
中郡小学校 校舎	1994(H6)	23	3228.82	RC	教育総務課
中郡小学校 体育館	1978(S53)	39	782.06	SRC	教育総務課
高山小学校 校舎	1990(H2)	27	2109.18	RC	教育総務課
高山小学校 体育館	1989(H1)	28	824.86	SRC	教育総務課
吉島小学校 校舎	1986(S61)	31	5172.00	RC	教育総務課
吉島小学校 体育館	1984(S59)	33	1036.00	SRC	教育総務課
玉庭小学校 校舎	1963(S38)	54	1476.00	RC	教育総務課
玉庭小学校 体育館	2016(H28)	1	622.23	S	教育総務課
東沢小学校 校舎	1981(S56)	36	2396.00	RC	教育総務課
東沢小学校 体育館	1975(S50)	42	664.00	S	教育総務課
川西中学校 校舎	1984(S59)	33	6212.28	RC	教育総務課
川西中学校 体育館	1983(S58)	34	1395.00	S	教育総務課
川西中学校 給食室	2011(H23)	6	374.14	RC	教育総務課
川西中学校 武道場	1996(H8)	21	450.00	SRC	教育総務課

#### ① 現状と課題

##### ア 施設の利用状況、劣化・損傷等の状態

小・中学校施設については、昭和59年から平成5年にかけて整備が進められ、建築後30年程度経過している施設が多く、屋根や躯体など全体的に老朽化と劣化が見られる。

また、平成30年度から町内小学校区の学区再編により、高山小学校及び東沢小学校が教育施設としての利用は終了となる。

##### イ 点検・耐震診断の有無及び診断結果等

新耐震基準以前に建設された、玉庭小学校校舎及び犬川・中郡・東沢小学校の屋内運動場については、耐震診断を実施し、すべての施設において「地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が高い。」と判定されたため、年次計画的に耐震補強工事を完了している。

なお、玉庭小学校屋内運動場については、耐震診断の結果、補強工事の施工は困難であるとの判定から、平成28年度に改築工事を実施している。

## ② 維持管理の方針及び計画

### ア 施設の必要性、配置の考え方

平成30年4月から学区再編により小学校2校が閉校となり、今後、児童数の状況から、更なる通学区域の見直しは必要と思われるが、当面、小学校6校及び中学校1校の配置を継続していく。

なお、閉校となる高山小学校及び東沢小学校については、地域振興の拠点となっており、跡地利用については、今後の地域づくりに資する課題と捉えながら検討していく必要がある。

### イ 対策の方針

施設整備については、現状維持を基本としながらも建築年及び全体の状況を把握し、改修すべき施設を長期的な改修計画により財政負担の平準化に努める。

経年劣化が進んでいる吉島小学校の屋根について平成30年度に改修を行い、平成31年度以降に大塚小学校の屋根改修を検討する。

雨漏りが著しい川西中学校の外壁改修について平成34年度以降から概ね平成37年度までを目途に整備を行う。

また、老朽化が進んでいる玉庭小学校の寄宿舎については、平成31年度以降に除却を検討する。

なお、閉校となる高山小学校及び東沢小学校の跡地利用については、平成30年度から利活用又は除却について検討を行い、早期に方針を定める。

## 4. 子育て支援施設

### (1) 幼稚園・保育所・子育て支援センター

施設名	建築年	経過年	延床面積(m <sup>2</sup> )	構造	管理担当課
美郷幼稚園	1982(S57)	35	800.49	RC	教育総務課
北斗幼稚園	1998(H10)	19	877.81	W	教育総務課
小松保育所	1978(S53)	39	956.81	RC	教育総務課
玉庭へき地保育所	1993(H5)	24	403.67	W	教育総務課
子育て支援センター	1987(S62)	30	799.53	W	教育総務課

### ① 現状と課題

#### ア 施設の利用状況、劣化・損傷等の状態

子育て支援施設は、子育て世代が働きやすく、安心して子どもを産み育てられる環境として整えてきた。

子育て支援施設については、昭和50年代前半から整備が進められたこともあり、建築後30年程度経過している施設が多く、施設の老朽化とともに設備の経年劣化が見られる。特に、昭和53年に建設された小松保育所は、建築後39年が経過していることから、施設・設備とも老朽化が進んでいる。

#### イ 点検・耐震診断の有無及び診断結果等

新耐震基準年以前の小松保育所は、法令による耐震診断の対象施設でないため、耐震診断は実施していない。

## ② 維持管理の方針及び計画

### ア 施設の必要性、配置の考え方

子育て支援施設は、子どもたちが未来への夢と郷土への愛着を育んでいく環境整備として、人口減少対策に必要な施設となっている。

一方で、将来の出生者数や保護者の保育ニーズを見据え、施設形態の見直しを含めて検討していく必要がある。

### イ 対策の方針

小松保育所を除く施設については、建築年及び全体の状況を把握しながら計画的に維持管理に努めていく。

老朽化している小松保育所については、今後の出生数の動向及び多様化する保育ニーズを見据えながら、整備も含めて今後のあり方を総合的に検討していく。

## 5. 保健・福祉施設

### (1) 川西町生きがい交流館

施設名	建築年	経過年	延床面積(m <sup>2</sup> )	構造	管理担当課
生きがい交流館	2002(H14)	15	311.37	W	健康福祉課

### ① 現状と課題

#### ア 施設の利用状況、劣化・損傷等の状態

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
利用件数	580 件	631 件	568 件	538 件	682 件

乳幼児等の各種健診をはじめ、高齢者及び障がい者団体等に多く利用されているほか、周辺の美女木及び緑町自治会のコミュニティー活動への貸館として利用されている。

施設躯体は大きな損傷もなく健全であるものの、大型引き戸や設備更新等の維持修繕が必要である。

### イ 点検・耐震診断の有無及び診断結果等

新耐震基準は適用されている。

## ② 維持管理の方針及び計画

### ア 施設の必要性、配置の考え方

幅広い利活用がされており、周辺の地域住民のコミュニティー活動で活用されている。

また、川西町地域防災計画において、福祉避難所として位置づけられており、継続した施設管理が必要である。

### イ 対策の方針

計画的な維持修繕、設備更新等により長寿命化を図り、施設を維持する。

## (2) 健康福祉センター（旧川西町立病院）

施設名	建築年	経過年	延床面積(m <sup>2</sup> )	構造	管理担当課
健康福祉センター	1967(S42)	50	2604.55	RC	健康福祉課

### ① 現状と課題

#### ア 施設の利用状況、劣化・損傷等の状態

健康福祉センターは、在宅福祉や介護保険事業をはじめ、福祉相談、ボランティア活動支援、高齢者生活支援等、地域福祉の拠点であり、機能運営を担う川西町社会福祉協議会の事務所兼事業所として利用されている。また、空きスペース一部は健康福祉課の書庫として管理している。

施設は築50年が経過し、躯体、設備ともに老朽化は著しい現状である。

#### イ 点検・耐震診断の有無及び診断結果等

新耐震基準以前の竣工であるが、耐震診断は実施していない。

### ② 維持管理の方針及び計画

#### ア 施設の必要性、配置の考え方

現在、主に福祉センター機能として利用し、地域福祉の実働的な拠点、機能として必要不可欠である。

施設の老朽化が著しいため、置賜広域病院企業団に移管している川西診療所の整備のあり方と併せて検討する必要がある、整備費用の削減や町民の利便性等、医療・福祉・介護の一体的なサービス提供等を見据えた施設整備を検討していく。

#### イ 対策の方針

川西診療所の整備の方向性と併せて、施設の再配置等について検討を行う。

## 6. 行政系施設

### (1) 除雪サブセンター・スノーステーション

施設名	建築年	経過年	延床面積(m <sup>2</sup> )	構造	管理担当課
防雪サブセンター	1975(S50)	41	348.00	S	地域整備課
スノーステーション	1994(H6)	23	208.68	S	地域整備課

### ① 現状と課題

#### ア 施設の利用状況、劣化・損傷等の状態

防雪サブセンターは、除雪機械及び書類の保管場所として利用しており、築42年が経過しているものの、施設躯体は概ね健全である。

スノーステーションは、除雪機械の保管場所として利用しており、平成27年度に屋根改修繕を実施している。

#### イ 点検・耐震診断の有無及び診断結果等

新耐震基準以前の防雪サブセンターは、耐震診断対象の施設でないため、実施していない。

## ② 維持管理の方針及び計画

### ア 施設の必要性、配置の考え方

防雪サブセンター及びバスノーステーションともに、除雪機械格納施設として継続した施設管理が必要である。

### イ 対策の方針

計画的な維持修繕、設備更新等により長寿命化を図り、施設を維持する。

## 7. 公 園

### (1) 川西ダリヤ園 (施設)

施設名	建築年	経過年	延床面積(m <sup>2</sup> )	構造	管理担当課
売店・食堂	2003(H15)	14	103.93	W	産業振興課
チケットブース	1998(H10)	19	73.70	W	産業振興課
管理棟・球根貯蔵庫	2004(H16)	13	195.42	W	産業振興課
資材庫	1981(S56)	36	123.75	W	産業振興課
倉庫	2009(H21)	8	33.12	W	産業振興課

### ① 現状と課題

#### ア 施設の利用状況、劣化・損傷等の状態

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
入園者数	57,450 人	50,403 人	53,289 人	62,591 人	58,356 人

川西ダリヤ園は昭和 35 年に開園し、平成 11 年に現在地に移設、開園している。リニューアル以降、園内施設を年次計画的に整備してきているものの、特に、売店・食堂については 14 年が経過し経年劣化やスペースの手狭感など、観光地としての魅力アップのため施設環境の充実が求められている。

#### ○売店・食堂

売店整備当時の入園者数は一日当たり 500 人弱であったが、入園者が年々増加する中で売店、食堂スペースが手狭となっており、夏場の暑さ対策や雨天時、冷涼期の避難対策などを含め、川西ダリヤ園の更なる魅力アップとして施設の拡張改善が必要となっている。

#### ○チケットブース

築 19 年が経過し、年次計画的に屋根の雨漏り改修、トイレ改修、外壁亀裂の補修、看板等の補修を実施してきている。また、トイレ排水の下水ポンプ等の異常が頻繁に発生しており、ポンプ設備の更新整備が必要である。

#### ○管理棟・球根貯蔵庫

栽培管理を担う従業員の休憩及び作業所を併設した球根貯蔵庫であり、ダリア球根(約 6 万球)が貯蔵され、ダリヤ園の付帯施設として最も重要な施設である。築 13 年が経過しており、施設躯体の状態は健全であるものの、貯蔵施設の重要性から計画的な維持補修は必要である。

○資材庫

旧川西ダリヤ園の球根貯蔵庫として整備された施設であるが、新たな球根貯蔵庫の整備に伴い、ダリア栽培管理に要する資材、道具類の保管として活用している。整備後36年が経過し経年劣化が進んでいるものの、施設躯体は概ね健全である。

○倉庫

ダリヤ園及び置賜公園に関わる観光資料のほか、イベント資材等の保管として使用している。保管スペースが手狭となっているものの、経年劣化も見られず施設躯体は健全である。

イ 点検・耐震診断の有無及び診断結果等

新耐震基準以前の資材庫については、耐震診断対象の施設でないため、実施していない。その他の施設は新耐震基準が適用されている。

② 維持管理の方針及び計画

ア 施設の必要性、配置の考え方

川西ダリヤ園は、町の観光拠点として最も重要な施設であり、各施設ともに現有機能の維持継続は必要不可欠である。

イ 対策の方針

計画的な維持修繕、設備更新等により長寿命化を図り、施設を維持する。

なお、ダリヤ園売店・食堂については、高温や雨天等の冷涼期対策等の施設機能のあり方について調査検討を行う。

(2) 置賜公園（施設）

施設名	建築年	経過年	延床面積(m <sup>2</sup> )	構造	管理担当課
野外ステージ	1987(S62)	30	152.58	S	産業振興課

① 現状と課題

ア 施設の利用状況、劣化・損傷等の状態

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
利用者数	一人	一人	6,200人	7,081人	7,723人

昭和62年に旧川西ダリヤ園のイベントステージとして整備され、川西奉賛獅子まつり、地酒と黒べこまつり、さなぶりまつり等に活用されてきた。

平成11年に川西ダリヤ園が移転整備されて以降、利用頻度は減少し、現在、イベント用資材の倉庫として活用している。

築30年が経過し施設全体に経年劣化が見られ、特に、屋根や壁面の劣化、損傷が進んでいる。

イ 点検・耐震診断の有無及び診断結果等

新耐震基準は適用されている。

## ② 維持管理の方針及び計画

### ア 施設の必要性、配置の考え方

施設目的としての利活用、必要性について検討が必要である。観光イベント関連資材の全体的な保管機能の確保を検討し、当面は施設の維持管理は必要である。

### イ 対策の方針

計画的な維持修繕、設備更新等により長寿命化を図り、施設を維持する。

## 8. 供給処理施設

### (1) 川西町たまにわ堆肥センター

施設名	建築年	経過年	延床面積(m <sup>2</sup> )	構造	管理担当課
たまにわ堆肥センター	2007(H19)	10	2,966.6	S	産業振興課
〃 (管理棟)	2008(H20)	9	39.75	W	産業振興課

### ① 現状と課題

#### ア 施設の利用状況、劣化・損傷等の状態

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
処理量	1,708 t	1,500 t	1,637 t	2,064 t	2,602 t
供給量	1,276 t	1,025 t	1,332 t	1,362 t	1,418 t

たまにわ堆肥センターは平成19年に整備され10年が経過している。

躯体部分は鉄骨、屋根材は良質な堆肥生産を目的として採光率の高いポリエステル素材(膜材)を採用している。

施設躯体は健全であるものの、屋根膜材の耐用年数は概ね9年であり、耐用年数が経過し膜材の劣化による破損が多発している。特に、冬期間は表面劣化に伴う滑雪性能が著しく低下し、雪の重量による大規模破損の原因となっている。

#### イ 点検・耐震診断の有無及び診断結果等

新耐震基準は適用されている。

## ② 維持管理の方針及び計画

### ア 施設の必要性、配置の考え方

たまにわ堆肥センターは、畜産経営が盛んな本町において家畜排せつ物の適正処理及び牛ふんの優良堆肥化・土壌還元による地域循環農業の要となっている。

特に、本町の肥育牛の約半分を飼養する「玉庭放牧場内の畜産団地」においては堆肥センターが隣接していることから、労働コストの削減に寄与しており、継続して施設の維持管理を行っていく。

### イ 対策の方針

劣化の著しい屋根膜材について、平成31年度以降に全面改修を行う。

## 9. その他の施設

### (1) 川西町斎場

施設名	建築年	経過年	延床面積(m <sup>2</sup> )	構造	管理担当課
斎場	1988(S63)	29	574.34	RC	住民生活課

#### ① 現状と課題

ア 施設の利用状況、劣化・損傷等の状態、

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
月平均稼働率	16.9 日	17.8 日	15.5 日	15.6 日	16.3 日

築 29 年が経過し、躯体においては屋根の腐食、劣化が見られる。

火葬炉周辺設備において一定の割合で劣化が進行するため、定期的な補修・更新が必要である。

イ 点検・耐震診断の有無及び診断結果等

新耐震基準は適用されている。

火葬炉周辺設備の点検を実施しており、計画的な補修等が必要である。

#### ② 維持管理の方針及び計画

ア 施設の必要性、配置の考え方

火葬に係る必要不可欠な施設であり、継続して適切な維持管理を行う。

イ 対策の方針

計画的な維持修繕、設備更新等により長寿命化を図り、施設を維持する。

### (2) かわにし森のマルシェ

施設名	建築年	経過年	延床面積(m <sup>2</sup> )	構造	管理担当課
かわにし森のマルシェ	2015(H27)	2	519.76	S	産業振興課

#### ① 現状と課題

ア 施設の利用状況、劣化・損傷等の状態

	—	—	—	—	平成 28 年度
利用者数	—	—	—	—	78,469 人

築 2 年の新築であり施設の状態は健全である。

イ 点検・耐震診断の有無及び診断結果等

新耐震基準は適用されている。

#### ② 維持管理の方針及び計画

ア 施設の必要性、配置の考え方

町内産品の販売及び情報発信の機能を有する本町の 6 次産業化の拠点として、平成 27 年

に整備され、株式会社かわにし森のマルシェを指定管理者とし、現在約180名の出荷者を登録しながら、町内産の農産物や加工品の販売及びレストランにおける提供を行っている。

町内産の農産加工品の生産拡大及び多品目化を推進するため、生産者の育成や資源の掘起しや品質向上に努めながら、継続して施設の維持管理、活用を図っていく。

#### イ 対策の方針

計画的な維持修繕、設備更新等により長寿命化を図り、施設を維持する。

## VI 計画の進行管理

本計画は、かわにし未来ビジョンと整合性を図りながら、施設管理所管課で構成する「川西町公共施設等管理委員会」において、計画の進行管理を行う。

計画的な維持修繕、設備更新等による施設の長寿命化を優先しながら、社会動向等の変化や緊急等を踏まえて公共施設のあり方や再配置等を検討します。

また、毎年、実施計画策定の過程において施設管理の年次計画の進捗、変化等を集約し、予算化の状況等により施設管理計画の推進及び見直しを行う。